

# 競輪事業の持続的発展のための 課題解決に向けて —具体的な取組のための制度設計—

## これまでの進捗報告

令和2年6月15日

公益財団法人 J K A  
公益社団法人 全国競輪施行者協議会  
一般社団法人 日本競輪選手会

# (1) 「競輪最高会議」の抜本強化

具体的制度設計		主体	取組状況	効果
①	競輪最高会議会則等関連規則の改正	JKA 全輪協 日競選	以下の②～⑤までの具体的制度設計を実行するために、2018年11月以降3度に渡り、競輪最高会議会則（以下「会則」という。）を改正した。引き続き必要な改正の検討を行う。	以下のとおり。
②	機能・役割（競輪事業の将来像の検討・明確化）	JKA 全輪協 日競選	会則に「競輪事業の活性化に資する競輪事業の経営全般に係る事項」を追加し、競輪事業の経営全般について、競輪最高会議（以下「最高会議」という。）の意思決定を可能とした。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月の開催において、緊急事態宣言の発令も在りうる状況下で、新型コロナウイルス感染症対策に関する課題については、下部会議の機動力が必要と判断し、競輪活性化委員会において審議することを確認し、競輪活性化委員会が新型コロナウイルス感染症対策を迅速に行っている。</li> </ul>
③	機能・役割（最終責任主体としての決断・指示等）	JKA 全輪協 日競選	議長に会議の運営及び決定を司ることや、議長の属する団体に事務局を置くことを規定した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下部会議は議論の場を迅速に設け、積極的に審議を重ねることとなった。また、下部会議からは最高会議に、審議結果についての最終判断を委ねることとなり、それぞれが円滑に機能・役割を果たしている。</li> <li>・GⅢ概定番組の2019年1月変更に関しては、決定までに競輪活性化委員会では77日要したが、概定見直しについては56日と約三割短縮し決定した。</li> </ul>
④	構成メンバー（JKA、全輪協、日競選の役員の一部）	JKA 全輪協 日競選	関係団体の会長、理事長及び専務理事から構成することとし、議長は互選による選任としたほか、外部アドバイザーの登用を図った。また、構成団体の一団体から開催要求があった場合は開催することを規定し、最高会議の開催・運営について公平・公正を図った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成メンバーに異動があったが、新型コロナウイルス感染症対策などの緊急的な課題についても再構成したメンバーにより最高会議の審議は停滞なく行えた。</li> </ul>
⑤	決議事項（全体最適に係る経営事項全般）	JKA 全輪協 日競選	「検討すべきテーマ」として売上、収益ともに伸ばすための施策の検討をしている。 （追加取組） 特別競輪等運営要綱を決定した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・迅速にお客様のニーズを取り込み、2021年度からオールスター競輪のナイト化の決定を行った。また、試行的にナイトFⅡの一部開催において、7車立てレースを6レース以降実施する事について決定し、売上向上の施策を実施できた。お客様にアンケートを実施したところ、約半数は「どちらともいえない」と回答し残りのうち「良い」「やや良い」の回答が「あまり良くない」「良くない」を上回ったものの、施策の実施を「知らなかった」との回答が6割を超え、今後のPR方法に課題が残った。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策についても迅速に対応した。</li> </ul>

# (1) 「競輪最高会議」の抜本強化

具体的制度設計		主体	取組状況	効果
⑥	決議事項（特別競輪（GⅡ以上の開催場））	JKA 全輪協 日競選	最高会議においてGⅡ以上の特別競輪開催場を決定している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度からオールスター競輪をナイター化することで決定した。</li> <li>・決定に際しては、競輪祭のナイター化決定が15日要したのに比べ約6割短縮した5日で決定し迅速化した。</li> <li>・緊急事態宣言下の5月のGⅠ開催が中止になったことを受けて、改めてGⅠ開催の中止等の進め方について、関係団体が検討していくことを確認した。</li> </ul>
⑦	決議事項（先導的施行者（仮称））	JKA 全輪協 日競選	法律改正断念により、モデル事業を実施する施行者に対するPR支援という形に変えて2019年度の上半期にPR支援を実施した。 （追加取組） 2020年度上半期の募集をした。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度モデル事業に当たって、前年度における募集の課題解決として追加募集や通年募集を設け、5月末時点で9件のPR支援を行うことを決定している。</li> <li>・2019年度の事業の効果の検証を踏まえ下期以降の募集を行う。</li> <li>・2019年3月に制定した実施要領制定には決定まで114日要したが、10月の要領の改正には42日と約6割短縮し迅速化した。</li> </ul>
⑧	決議事項（開催日程）	JKA 全輪協 日競選	法律改正断念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日程はこれまでどおり施行者が行っている。</li> </ul>
⑨	決議事項（選手数及び選手賞金）	JKA 全輪協 日競選	最高会議において選手数と選手賞金を決定している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月開催の競輪最高会議においてこれまでのアドバイザーの意見を踏まえつつ2020年度選手賞金の審議を行い決定した。</li> </ul>
⑩	決議事項（肖像権等の知的財産の取扱い）	JKA 全輪協 日競選	昨年7月1日に「競輪選手会オフィシャルファンクラブ」を創設。会員には競輪選手をより身近に感じてもらいたくための情報配信を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の競輪場等で実施されているイベント情報が把握しやすくなり、会員と選手が触れ合う機会を多く提供できた。</li> <li>・本年4月末現在の会員数は2,359名で、毎月100名程度の新規加入がある。本年度においても会員数の増加を図るため、新たな企画を立案し展開していく。</li> </ul>

# (1) 「競輪最高会議」の抜本強化

具体的制度設計		主体	取組状況	効果
⑪	民間事業者の参加	JKA 全輪協 日競選	下部会議において民間事業者に係るテーマがあるときは参加を求めることを関係団体で合意した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策において、民間事業者に係るテーマを情報共有するため、守秘義務契約を締結し、全国場外車券売場協議会（以下「全車協」という。）が競輪活性化委員会に参加することとなり情報共有が図ることが出来た。</li> </ul>
⑫	会議運営の改善	JKA 全輪協 日競選	議長の所属する団体が事務局を担当することを決定した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染症対策に鑑み、3月の開催は3密対策の一環として、外部の会議室を利用しソーシャルディスタンスを確保した。</li> <li>・4月以降は事務局主導でインターネットを介したりモート会議の実施を決定し、機動的に実施するなど会議運営の改善を図った。</li> </ul>

## (2) JKAの組織・働き方改革及び人材の能力開発

### I. JKAの組織・働き方改革及び人材の能力開発

#### 1. 経営戦略・業務評価部の権限・体制強化

具体的制度設計	主体	取組状況	効果
① 経営戦略・業務評価部の権限体制強化	JKA	<p>経営戦略部が全体調整や査定の権限を持つ体制とし、事業評価や年度方針、事業計画、予算の策定を行った。 (追加取組) 業務評価関連業務については、これまで経営戦略・業務評価部全体で一体として実施していたところ、経営戦略と業務評価とを切り離し、それぞれ独立して行う方がより客観的かつ効果的に実施できるという考えの下、2019年度から、経営戦略部門は、重点事業の進捗管理と評価を行い、業務評価は、経営戦略を含めたJKA全体の評価を行うこととし、経営戦略・業務評価部を経営戦略部とし、業務評価については監査室と一元化し監査・業務評価室とすることとした。</p>	<p>・2019年度は各部署の管理職に対し次年度事業についてヒアリングを行ったうえで2020年度方針を決定し、各部署の重点事業の要求予算について査定を行ったことにより、年度方針に沿った事業計画と予算の策定ができた。 2020年度も同一スキームにより重点事業の進捗管理を行う。</p>
② 組織の見直し	JKA	<p>経営戦略・業務評価部の直下に改革推進チームを設置し、コンサルティング会社からの報告書をもとに組織の見直しを行った。</p>	<p>・検討の結果、JKAの組織が一体となり、かつスピード感を持って業務を推進するための組織内連携の強化と、効率的な事業運営の実現が課題として明らかになったため、2020年度については、組織力・体質強化を主な目的に、方針の策定及び機能強化の推進など組織の見直しを行った。</p>
③ JKAの組織に関するコンサルタントの活用	JKA	<p>「1. 経営戦略・業務評価部の権限・体制強化」のうち②組織の見直しのとおり</p> <p>2018年度より、コンサルタントからの助言に基づき、JKAの人材育成と人事管理上の諸課題を解決するため、人事制度のあり方について検討を行なった。</p>	<p>同左</p> <p>・左記の検討の結果、本年4月より人事制度を統一し、階層別に職員に期待する役割を明確に示すとともに、人事評価に基づく賞与と昇格の仕組みなど、仕事の成果と行動に応じた処遇体系を構築した。 ・2020年度においては、階層別研修の実施など、人材育成への取組みを更に強化する。</p>

## 2. 売場を定点観測できる組織体制整備

具体的制度設計		主体	取組状況	効果
①	部署間連携強化のうち、①定点観測機能（支部長の設置、定点観測運用）	JKA	各エリアの本部長及び競輪の開催現場に配置しているチーム長とが連携し、競輪施行者へのヒアリングなどの定点観測をする体制を構築した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各競輪場の感染拡大防止対策状況等、各エリアで情報共有を行いながら新型コロナウイルス感染症対策要綱に沿った対策を行っている。</li> </ul>
②	部署間連携強化のうち、①定点観測機能（全車協の定例会議の実施（四半期毎））	JKA	これまで不定期に開催していたものを4半期に1回程度、定例会議を実施し、イベントなどを協議・実施した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「KEIRINGランプリ」開催時における専用場外車券売場のお客様に向けたイベントを前売専用場を除く全65カ所（当時）で開催し、専用場外のKEIRINGランプリ売上が対前年比100.8%を記録した。また、今回はお正月イベントも実施し、年末から年始への来場促進が図れお客様から好評を得た。</li> <li>ガールズケイリン選手とオートレース女子選手とのトークイベントを1月にサテライト宇部で開催し、当日は約300名が来場するなど、好評を得た。</li> </ul>
③	部署間連携強化のうち、①定点観測機能（民間ポータルとの意見交換（各社年2回））	JKA	これまで各社とも不定期に意見交換会を行っていたものを、個別ではあるが意見交換会を各社年2回程度実施。	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別意見交換会を通して発走時刻の調整の要望があり、施行者に対し働きかけ、全国的な発走時刻の調整を行うことで購入機会損失の解消に繋げている。</li> <li>近年は各社の売上が伸びている。</li> <li>また、競輪最高会議において、競輪事業の施策に反映するため、民間ポータル各社から売上データ等を、全輪協を通じ入手することとした。</li> </ul>
④	部署間連携強化のうち、①定点観測機能（施設調査時の意見交換（随時））	JKA	レースの売上状況や来場されたお客様の動向をJKA職員が競輪施行者や場外車券売場オーナーにヒアリングを行ってJKA内で情報共有した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各競輪施行者とのヒアリングで要望のあった事項について、競輪場とJリーグとのコラボ事業を実施し、延べ約380名を競輪場イベントへ誘致できた。</li> <li>また、場外車券売場においては、サテライト成田でのインバウンド調査研究事業等サテライトとのインバウンド施策について協業事業として実施している。</li> </ul>



## 2. 売場を定点観測できる組織体制整備

具体的制度設計		主体	取組状況	効果
⑤	部署間連携強化のうち、②社内情報共有と施策等への反映	JKA	定点観測で得た情報をJKAで共有した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年の函館GⅢナイターの定点観測で普段より若いファン（カップル・女性等）が明らかに多かったとする報告が検討材料の一つとして活用されたり、通常よりガールズ選手が多く出走した開催でアンケートを行い、一度に多くのガールズ選手のレースを観戦できると来場するガールズケイリンファンが多かったことが分かった。</li> <li>・また、モーニング競輪の発走時刻を早めた施行者に対してのヒアリングでは、発走を早めた事での売上の相乗効果が見られたなどを部会長連絡会議や役員ミーティングで情報共有し、それぞれの施策へ反映した。</li> </ul>

## 3. 競技実施部門等の各部門の業務見直し・省人化・人的リソース再配分

具体的制度設計		主体	取組状況	効果
①	競技実施業務標準化のうち、検査器具の運用開始予定	JKA	複数の検査工程を集約できる自転車検査器具を開発することとし、本年11月以降の開催から運用を開始する予定。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年11月の検車器具導入後、自転車検査手順の再検証・一部改善を加え、2020年4月開催から「前検日の検査手順標準化」と人的リソース再配分に向けた「前検日の検査員の省人化（9人体制→6人体制）」を図った。</li> <li>・2019年12月の選手登録証ICカード化導入により、これまで選手が手書きで行っていた受付時の各種申告作業の簡易化や執務体制省人化の検討に必要な前検日の「選手受付確認・医務検査の標準化(併せてヒューマンエラー回避)」が図られた。</li> </ul>
②	競技実施業務標準化のうち、選手登録証のカード化運用開始予定	JKA	選手の情報をICカード化し、情報管理するシステムを構築することとし、本年12月の開催から運用を開始する予定。	

## 4. 中途採用の強化と適材適所の専門人材配置

具体的制度設計		主体	取組状況	効果
①	職員採用（中途職員募集予定）	JKA	職員年齢構成のアンバランスを是正する方向での採用を計画しており、募集職種及び募集人数については、各部門の体制及び業務課題等の状況を踏まえ、都度決定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年4月現在では総職員数618人に対して、30代以下の構成比は約24%となり着実に構成比を上げている。</li> </ul>
②	職員採用（定期職員採用予定）	JKA	職員年齢構成のアンバランスを是正する方向での採用を計画しており、2016年度から定期採用を再開。	
③	職員研修（リーダー養成プログラム研修（月1回、3年間））	JKA	幹部候補となりえる人材を育成するため、次長1名が「リーダー養成プログラム研修」に参加したほか、職員間のスキル格差是正のための「エクセル研修」、広報・宣伝を担当する職員が、インターネットメディアの構造やプレスリリースの作成に関する必須知識を高める目的で「SNS運用担当者養成講座」「メディアリレーションズ実践講座」など各種研修や講座に参加した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者は、各界の著名人による経験談を聴講したり、異業多種の参加者と交流を図ることで、幅広い知識を吸収し自らが所属する部署内で職員に対し発表し、内容を共有しながら業務にあたらせている。</li> <li>・2020年度については、コロナウィルス感染症の影響により研修会の実施が延期されているため、受講者についても選定中となっている。</li> </ul>
④	女性活用促進に関する取組み（JCF女子部会への委員派遣等）	JKA	女性アスリートの知識向上、女子競技発展等を目的とした自転車競技連盟（JCF）女子部会の活動に女性職員を参加させ、女性アスリートについてのさまざまな研究会や発表会等で意見を交わした。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年4月1日付で女性職員1名を課長職に登用するとともに、将来の登用候補者育成の観点から、課長補佐級及び係長級への昇格人事を行い、課長補佐及び係長に占める女性比率を27.1%から34.2%に増加させた。</li> <li>・また、女性活躍推進法改正への対応として、2025年3月31日までに、採用者に占める女性比率を20%以上とし、課長職以上に占める女性比率を2020年4月1日との比較で5倍以上とする行動計画を新たに策定し、社内周知を図るとともに、財団の採用情報サイトで外部への情報公表を行った。</li> <li>採用職員に占める女性比率は2020年度は14.2%。</li> <li>・加えて、女性活躍状況に関する現状把握と課題分析を行い、採用及び配置・育成のあり方など、財団における人事管理上の問題点を明らかにし、2020年度においては、女性活躍推進のための環境整備の一環として、女性活躍推進に関する会長メッセージを財団内で周知するとともに、女性に対する過剰な配慮や分業意識の撤廃など管理職への昇進を期待した育成・配置を行うための具体的検討に着手した。</li> <li>また、女性職員が安心して働くことのできる環境を整備するため、新型コロナウイルス感染予防対策と併せて、在宅勤務及び時差出勤を推進するとともに、子供の通学する小学校が休校となり、かつ子供の預け先等が無い者については、当面の間就労義務を免除する特例措置を適用することとした。</li> </ul>



#### 4. 中途採用の強化と適材適所の専門人材配置

具体的制度設計		主体	取組状況	効果
⑤	広報事業アドバイザーの登用（アドバイザーの人選・決定）	JKA	テレビCMや広告キャンペーン等を数多く手がけるなどクリエイティブディレクターとして広報に専門的知見を有し、また過去に競輪CMを手掛け競輪に対する識見もある箭内道彦氏を広報アドバイザーとして迎えた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度競輪CMについては、継続的な視聴効果によるCM認知度等の向上を図るべく、CM好感度調査において高評価（競輪CM歴代2位）を獲得したCMを継続して放送することとした。</li> <li>・メディア利用時間の増加が顕著なインターネットにおいては、CM企画内容及び競輪「自転車」と連動したWEB動画（立ちこぎ女子）を制作し、特に若年層に対する競輪の認知拡大・興味喚起・イメージアップ等を図った事業を実施。本動画については本年4月より配信を開始、今後年間を通して計10シリーズの動画を配信予定。</li> <li>・また、「けいりんマルシェ」については、掲載コンテンツの内容充実等により、2018年7月のサイトリニューアル後における各数値（セッション数、ユーザー数、PV数、滞在時間、直帰率数値が全て上昇する結果を得られた。 （例：月平均PV数421,528→910,304、116%UP 月平均ユーザー数37,517→56,253 49%UP）</li> <li>・また、他公営競技の類似サイト「umabi」「Let's BOAT RACE」との比較においても、一人当たりのセッション数が多い（＝サイト訪問者が何度も再訪→記事をたくさん読む傾向がみられる）、PV数が多い（＝読みたくなる記事が多い→コンテンツが充実）、直帰率が低い（他公営競技サイトはアクセスしてもすぐに帰る傾向がみられる）等の好結果が得られた。</li> </ul>
⑥	広報事業アドバイザーの登用（会議の実施）	JKA	広報アドバイザーに広報戦略ミーティングに出席いただき、適切なアドバイスをいただき、広報事業に反映させていくほか、CMの効果検証やその評価などについてもアドバイスをいただいた。	
⑦	広報事業アドバイザーの登用（広報戦略の策定）	JKA	引き続き、箭内道彦氏をアドバイザーとして登用。	

#### 5. 人事評価制度の人事管理への反映

具体的制度設計		主体	取組状況	効果
①	人事管理制度（人材マネジメント制度本格導入）	JKA	人材育成の強化のための人材マネジメント制度を2018年10月より実施した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考課基準について、企画立案等業務と開催現場業務の特性を踏まえた独自の考課基準を策定し、人材育成に繋げる仕組みを整え本格的に実施している。</li> <li>・新型コロナウイルス感染予防対策として、4月以降在宅勤務及び時差出勤を推進するとともに、競輪・オートレースにおける新型コロナウイルス感染症感染拡大予防ガイドラインに基づき、全役職員に日々の検温・健康状態及び行動の記録を義務付けた。</li> </ul>

## 6. 組織の透明性確保・組織内融合強化

具体的制度設計		主体	取組状況	効果
①	組織の透明性確保・組織内融合強化	JKA	外部からの役員や女性の役員の登用についての検討したほか、理事の担当部署の見直しを行い、理事の専決規程を設定した。また、役員ワークショップを実施した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年12月に外部から女性役員を登用し、女性管理職目線での人材育成方法や報道機関への効果的な情報発信の方法について助言を頂いた。</li> <li>・コンサルティング会社より講師を招き役員ワークショップを2019年度は4回実施し、経営理念や行動指針などについてや、ギャンブル等依存症の理解を深めるための勉強会を行っており役員間の連携強化が図れている。</li> </ul>

## 7. 業界・組織の目指す方向の設定

具体的制度設計		主体	取組状況	効果
①	業界・組織の目指す方向性の環境づくり	JKA	「(1)「競輪最高会議」の抜本強化」のうち、②「機能・役割(競輪事業の将来像の検討・明確化)」を参照	同左

## II. 投資のための財源確保

具体的制度設計		主体	取組状況	効果
①	投資のための財源確保	JKA	「(1)「競輪最高会議」の抜本強化」のうち、⑦「決議事項(先導的施行者(仮称))」を参照	同左

## III. 施行者間調整ルールとインセンティブ

具体的制度設計		主体	取組状況	効果
①	施行者間調整ルールとインセンティブ	JKA	「(1)「競輪最高会議」の抜本強化」のうち、⑦「決議事項(先導的施行者(仮称))」を参照	同左

## IV. 意思決定プロセスの見直し

具体的制度設計	主体	取組状況	効果
① 適切な意思決定が行われるための仕組み構築（競輪最高会議）	JKA	「（１）「競輪最高会議」の抜本強化」を参照	同左

## V. 競輪・オートレースと社会との繋がり強化

### 1. 補助事業

具体的制度設計	主体	取組状況	効果
① 補助事業の基本方針	JKA	2019年度の補助方針は、自転車活用推進法やギャンブル等依存症対策基本法など社会的な要請、東京オリンピック・パラリンピック開催による国民のスポーツへの意識の高まり及びスポーツ界が抱える諸問題への対応等、社会環境の変化を踏まえるものとした。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度補助事業においては、研究補助の分野でギャンブル等依存症に係る研究を2件採択し、スポーツ・パラスポーツ関係として16件採択した。</li> <li>・さらに、緊急的な対応を必要とする事業への支援として、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に係る活動に対し募集を開始し、様々な社会的課題が惹起されているコロナ禍に対応することとした。</li> <li>・また、2020年度に策定する次年度事業の補助方針においては「いのち輝く未来社会のデザイン」のテーマで実施される2025年日本国際博覧会への支援や感染症拡大防止策への対応等についても言及する予定とした。</li> </ul>

### 2. 250開催

具体的制度設計	主体	取組状況	効果
① 250KEIRINの開催	JKA	<p>250m競走路を用いた屋内型新競輪場における新しい競走の開催に向けて、2018年度から250開催部会を設置し、月1回程度開催し様々な課題への対応策を検討している。</p> <p>（追加取組）</p> <p>○来夏に開催が順延となった東京オリンピック・パラリンピック競技大会を競輪活性化の最大の契機と捉え、初の屋内250m板張り走路における開催に向けて環境整備と機運醸成を図っていく。</p> <p>○業務規程その他諸規則・制度の整備</p> <p>オリンピック及び国際自転車大会で実施しているケイリンに準拠した形で競技を実施すべく、経済産業省認可規程である業務規程以下の諸規則変更及び認可に向け調整中。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・250開催に出場を希望する選手（約600名）に対する講習会のスケジュールが決定し、6月よりJKA250にて実施する予定である。</li> <li>・（仮称）千葉公園ドームは2021年3月完成、250開催は5月開始に向けて建設中であり、250開催関連のシステムのうち競技情報系の開発はJKAが行っている。</li> </ul>

### 3. 電動バイク採用

具体的制度設計		主体	取組状況	効果
①	電動バイク採用	JKA	法律改正を断念	

### (3) 投資のための財源確保

具体的制度設計		主体	取組状況	効果
①	投資のための財源確保	JKA 全輪協 日競選	「(1)「競輪最高会議」の抜本強化」のうち、⑦「決議事項(先導的施行者(仮称))」に参照のモデル事業の実施に併せ、競輪事業の持続的発展に向けた取組のための財源確保策として「競輪事業活性化競輪」の実施について検討している。	・2021年度から「競輪事業活性化競輪」を数節の範囲内で実施することを検討中。

### (4) 施行者間調整ルールとインセンティブの仕組み構築

具体的制度設計		主体	取組状況	効果
①	施行者間調整ルールとインセンティブ	JKA 全輪協 日競選	「(1)「競輪最高会議」の抜本強化」のうち、⑦「決議事項(先導的施行者(仮称))」を参照。	同左

### (5) 厳格なモニタリングと是正措置の仕組みの構築

#### I. 複数団体にまたがる案件

具体的制度設計		主体	取組状況	効果
①	250 KEIRIN (仮称)	JKA	「(2) JKAの組織・働き方改革及び人材の能力開発」V. 競輪・オートレースと社会との繋がり強化のうち「2. 250開催」を参照。	同左

具体的制度設計	主体	取組状況	効果
② SNSを活用した情報発信	JKA	<p>話題のレース、話題の選手、競輪界のトピックスを随時、ガールズケイリン、けいりんマルシェのSNSに更新掲載している。</p>	<p>・2020年5月末現在、ガールズケイリン、けいりんマルシェをあわせTwitterは23,639人（主な要因はマルシェのTwitterが一昨年度2,600人から本年5月18,500人と7倍以上に増加。昨年度のマルシェの実施事業のコンテンツ充実等による効果、特に下半期から実施の競輪アンバサダー「けいマルガールズキャンペン」の効果、彼女たちが潜在的に持つフォロワーの獲得や編集部含めた頻繁なつぶやき等による効果が大きな要因）、Facebookは79,856人、Instagramは1,734人、LINEは4,908人と合計110,137人とフォロワー数を伸ばしている。  （umabiのTwitterは160,036人、Instagramは8,394人、Facebookは14307人であり、Let's BOAT RACEのTwitterは61,610人、Facebookは14,307人、LINEは12,995,159人。）</p>
③ 魅力的な映像の制作・発信	JKA	<p>先頭誘導員に車載カメラを装着させるなど競輪の迫力ある映像を提供して、競輪の魅力を伝えていくことを検討している。  （追加取組）  競輪レース中継等における新たな映像演出方法の検討について、競輪レースの迫力や躍動感、ならびに選手の“顔”が見える等の効果的な映像演出を図るべく、今年度の競輪中継等における実施検討および試験的放送を実施した。</p>	<p>・競輪中継番組を放映する放送局と協力体制を構築し、従来の演出方法と併せ、「バーチャルCG」及び「トラッキングシステム」を新たに導入、放送を実施した。本事業を実施した中継は、日本テレビ（全国27局ネット）「KEIRINグランプリ」-視聴率2.7%(関東)・想定視聴者数は約485万人、及び「全日本選抜競輪」-視聴率5.0%(関東)・視聴者数は約659万人となり、合計約1144万人の視聴者に対する同映像の視聴に寄与した。  ・日本競輪選手養成所の競走訓練において「ドローンカメラ」「誘導員車載カメラ」を使用した試験撮影に協力した。</p>
④ プレーヤーズカードの制作・販売	日競選	<p>「（1）「競輪最高会議」の抜本強化」のうち、⑩「決議事項（肖像権等の知的財産の取扱い）」を参照</p>	同左
⑤ 電動バイクを活用したオートレース	JKA	<p>「（2）JKAの組織・働き方改革及び人材の能力開発」V. 競輪・オートレースと社会との繋がりの強化のうち「3. 電動バイク採用」参照。</p>	同左



具体的制度設計		主体	取組状況	効果
⑥	適切な意思決定が行われるための仕組構築（競輪最高会議）	JKA 全輪協 日競選	「（１）「競輪最高会議」の抜本強化」のうち、「競輪最高会議会則等関連規則の改正」を参照。	同左
⑦	仕組みに基づく適切な意思決定のうち、施行者間調整ルール構築、インセンティブの仕組み構築	JKA 全輪協 日競選	「（１）「競輪最高会議」の抜本強化」のうち、⑦「決議事項（先導的施行者（仮称）」を参照	同左
⑧	仕組みに基づく適切な意思決定のうち、肖像権等の知的財産の取扱い	日競選	「（１）「競輪最高会議」の抜本強化」のうち、⑩「決議事項（肖像権等の知的財産の取扱い）」を参照	同左

## Ⅱ. JKAの組織・働き方改革及び人材の能力開発に関する具体的な取組

具体的制度設計		主体	取組状況	効果
	上記（２）の具体的な取組	JKA	「（２）JKAの組織・働き方改革及び人材の能力開発」を参照。	同左

### （６）JKAが行う社会還元

具体的制度設計		主体	取組状況	効果
①	補助の重点化（オリンピック、スポーツ、自転車）	JKA	「（２）JKAの組織・働き方改革及び人材の能力開発」のうち「V. 競輪・オートレースと社会との繋がりの強化」1. 補助事業と同じ。	・2019年度においてはナショナルチームの競技力向上に向け、5件（615,536千円）採択した。
②	ギャンブル等依存症対策	JKA	各公営競技団体と緊密に情報共有を行い、啓発週間を設けギャンブル等依存症対策についてポスターなどを作製し競輪場、オートレース場に掲示し周知を図った。	・2020年度のセミナーは新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となった。 5月14日からの啓発週間において、各公営競技共通のポスターを作成し、競輪・オートレース・JKAのHPにそれぞれ掲載した。



## 「KEIRINGランプリ」抽選会

- 3年連続での実施となった「KEIRINGランプリ」抽選会は、毎年、好評を博しており、お客様にとっては年末のお楽しみのひとつになりつつあります。
- ちょっとしたお菓子類から、高級食材品などを取り揃えての抽選会は、場所によっては早々に予定数に達してしまうほどの賑わいもあります。



サテライトかしま



サテライト新潟



熊本新市街

※2019年12月28日～30日に撮影したもの

○開催現場における標準化を図るために導入された、レースに参加する選手の本人確認や健康状況をチェックするためのICカードやレースに参加するための自転車を検査する器具が本格的に稼働しています。

○補助の重点化  
東京オリンピック・パラリンピックに向けて  
自転車トラック短距離競技用機材開発  
補助事業  
ブリヂストンサイクル(株)



◀ ICカード



◀ 検車器具



▲オリンピック代表  
脇本雄太選手(福井)と  
開発された競技用自転車



## (参考) (5) I. ③ 関連

### 映像演出方法 - トラッキングシステムについて

#### 【KEIRINグランプリ2019における中継実績】

##### ○番組タイトル

番組タイトルの表示は立体的かつ重厚感溢れるものとなりました。



##### ○トラッキングシステム 「選手名トラッキングスーパー」



世界戦で活躍する選手が一目瞭然となるような演出効果を施しました。

○ギャンブル等依存症についての理解を深めるために、大学生に向けたセミナーを行ったり、啓発週間においてポスターなどの刊行物の掲示やホームページ上への掲載などを行い広く周知しています。



▲ギャンブル等  
依存症セミナー  
(2019年実施)



▲2020年度  
ギャンブル等依存症問題啓発週間  
ポスター